【家庭分野】

２．これまでの研究経過

平成２６年度～平成２８年度　「工夫し創造する能力の深化」
　１年次　「これからの生活を展望できる学習内容の工夫」(A 家族・家庭と子どもの成長)
　２年次　「深く考え、生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」(C 衣生活・住生活と自立)
　３年次　「深く考え、生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」(B 食生活と自立)
平成２９年度～令和元年度　「技術・家庭科における「見方・考え方」を働かせた学び」
　１年次　「主体的な学びを育成する授業の展開　～RTD による批判的思考を取り入れた授業～」
(D 身近な消費生活と環境)
　２年次　「家庭科分野における資質・能力を育成する授業の展開
～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～」(A 家族・家庭と子どもの成長)
　３年次　「家庭科分野における資質・能力を育成する授業の展開
～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～」(A 家族・家庭生活)
令和２年度～　「技術・家庭科における主体的な学びを実現した授業」
　１年次　「家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」(B 食生活と自立)

昨年度は、「家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」というテーマに基づき研究を行った。授業を公開することはできなかったが、研究会の先生方には動画視聴という形で見ていただき、オンラインでの研究会を行った。学びのプロセスモデルを組み込んだ学習過程、主体的な学びを実現する手立てについて検討された。

３．研究の目的と手立て

本研究の目的は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るための有効な手立てを検討し、工夫することである。また、無理のない指導計画を作成し、３年間を通して家庭科における資質・能力の育成を目指すものである。

手立てとして次の３つを考えている。

①生徒が学ぶ目的を自覚し、主体的に課題に取り組めるような題材を設定し、課題を設定する場面を工夫する　＜主体的＞

生徒の興味関心を引くような題材を考えることだけではなく、生徒が自分の事として捉え、積極的に学びに向かうような、効果的な“題材を貫く課題”の設定の仕方についても検討したい。

②生活の営みに係る見方・考え方を軸とした学習を工夫する　＜深い学び＞

見方・考え方を働かせることで、資質・能力の育成を図り、より深い学びの実現につなげたい。

③問題解決的な学習過程を設定する　＜主体的＞＜対話的＞＜深い学び＞

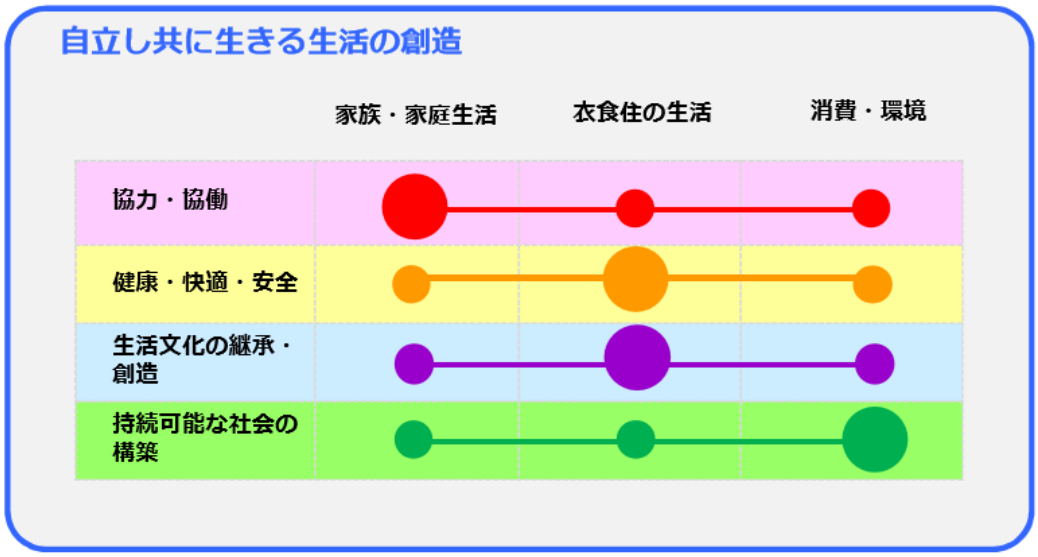
生活や社会の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、計画、実践、評価・改善して、新たな課題の解決に向かうという一連の学習過程を重視した学習計画を工夫したい。

４．技術・家庭科（家庭分野）における「見方・考え方」について

「新学習指導要領解説（H29 年）」では、技術・家庭科（家庭分野）における「見方・考え方」を以下のように示している。

「生活の営みに係る見方・考え方」 「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」

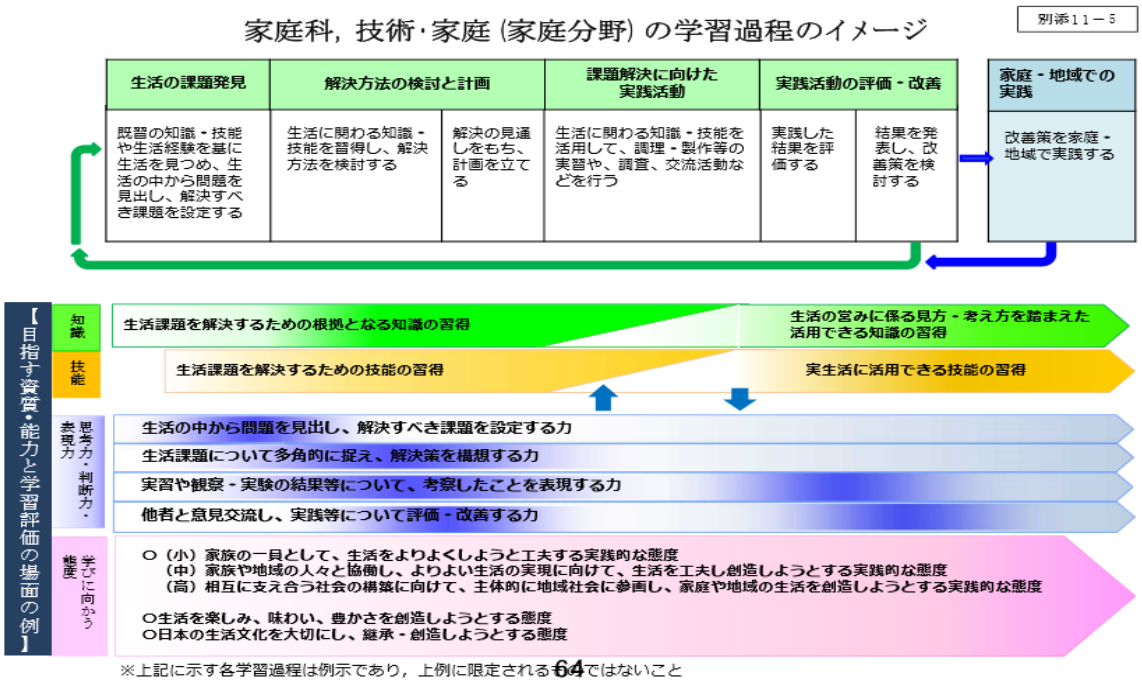
○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。



「学習指導要領（H２９年）」では、技術・家庭科（家庭分野）において育成をめざす資質・能力を以下のように整理し、示している。

（１）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
（２）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
（３）自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

さらに、「技術・家庭科（家庭分野）で育成することをめざす資質・能力」は『「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・ 改善するという活動の中で育成できると考えられる。』とある。（以下、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程のイメージ）



このように、育成することを目指す資質・能力を育むためには知識や技能を身につけるだけではなく、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、習得した知識や技能を活用して課題の解決を図ることで学習を深めたり、よりよい生活の実現のために工夫し創造したりすることが求められている。

５．全体研究とのかかわり

全体研究のテーマ『創造性に富んだ、未来を切り拓く生徒の育成～「主体的な学び」のプロセスモデル実現を目指して～』の実現のため、技術・家庭科での研究テーマを『技術・家庭科における主体的な学びを実現した授業』とし、家庭分野での研究テーマを『家庭分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて』として研究を行っていく。

「自ら追究する」とは、自ら問を重ね、学び方を工夫しながら探究を続けることであり、新たな学習に対して意欲をもち、自己や他者、教材などとの対話を通して、学び考え続けることである。また、見方・考え方を働かせるとともに、既有の知識・技能を活用して、多面的・多角的に考えることである。そして、社会が直面する新たな課題について学び、新たな知や技術革新などを活用してよりよい解決を目指し、「未来を切り拓く」ことにつながっていくと考える。技術・家庭科（家庭分野）が目指す生徒につけたい力として、「これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度」を育成することから、全体研究のテーマに迫りたいと考える。

（１）創造性

生徒の実態をもとに本校で考える「創造性」とは、「自ら課題を見出し、その解決に向かって、これまでに学んだことや新たな知、技術革新を結び付けて、新たな価値を創造する資質・能力」である。

家庭分野の学習において、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応する力を育成することが求められている。これらの社会の変化に関わる諸課題を解決したり、生徒自身の生活課題を解決したりするために、見方・考え方を働かせることで身につけた資質・能力を活用する力を高めることから、創造性の育成を図りたい。

（２）主体的な学びを実現するための手立て

家庭分野の研究に迫るための手立て①と③を基に、主体的な学びの実現について検討したい。③について、具体的には家庭科の一連の学習過程を「見付ける」「知る・深める」「見通す」「活かす・深める」「まとめる・振り返る」として、さらに附属中「主体的な学び」のプロセスモデルを組み込みたいと考えている。これを「学びの過程」として次に示す。

<table>
<tr><td>学習過程</td><td>生活の課題発見</td><td colspan="2">解決方法の検討と計画</td><td>課題解決に向けた実践活動</td><td colspan="2">実践活動の評価・改善</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学びの過程</td><td>「見付ける」</td><td>「見通す」</td><td>「知る・深める」</td><td>「活かす・深める」</td><td colspan="2">「まとめる・振り返る」</td></tr>
<tr><td>課題を見付ける</td><td>課題解決のための学習を見通す</td><td>課題解決のために必要な知識や技能を習得する</td><td>習得した知識･技能を活用する中で､さらに深める</td><td colspan="2">実践を振り返り、新たな課題を見つける</td></tr>
<tr><td>学習活動
（プロセスモデル）</td><td>既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する
（目標設定）</td><td>解決の見通しをもち、計画を立てる
（方略計画）</td><td>生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する
（遂行・振り返り・方略調整）</td><td>生活に関わる知識及び技能を活用して､調理・製作等の実習や､調査､交流活動などを行う
（遂行･振り返り･方略調整）</td><td>実践した結果を評価する
（全体の振り返り）</td><td>結果を発表し、改善策を検討する
（全体の振り返り）</td></tr>
</table>

（３）主体的に学習に取り組む態度の見取り

附属中家庭分野「学びの過程」を実践する中で現れる「生徒の主体的な学び」を評価する。ここで行う主体的な学びの評価は、観点別評価や評定に用いる評価として扱う「主体的に学習に取り組む態度」の評価でもあるので、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」、技術・家庭科ならではの「実践しようとする態度」の３点に着目して評価を行っていく。具体的な評価の場面と評価資料について、次のように考えた。

主体的に学習に取り組む態度	評価の場面と評価資料	「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の例
粘り強い取組を行おうとする側面	一連の「学びの過程」における生徒の取組状況	学習内容に関心をもち、あきらめずに取り組んでいる
自らの学習を調整しようとする側面	「知る・深める」「見通す」「活かす・深める」の過程での生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述	授業の中でわかったことや他の生徒の意見を参考にして、自分の考えを振り返り、改善しようとしている
実践しようとする態度	「まとめる・振り返る」の過程での生徒の取組状況及び、ワークシートや振り返りシートの生徒の記述	生活を工夫し創造しようとしている

６．〈引用・参考文献〉

・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編」 文部科学省（平成２０年９月）
・「中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編」 文部科学省（平成２９年６月）
・「評価規準の作成評価方法等の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所（平成２３年１１月）
・中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方 策等について」 文部科学省（平成２８年１２月２１日）
・新学習指導要領の展開 技術・家庭 家庭分野編 明治図書
・持続可能な開発のための教育（日本ユネスコ国内委員会） 文部科学省
・家庭科への参加型アクション志向学習の導入 大修館書店
・実践的指導力をつける家庭科教育法 大学教育出版
・中等教育資料（令和元年１２月号）学事出版
・山梨大学教育学部附属中学校研究紀要（平成２８年度）
・山梨大学教育学部附属中学校研究紀要（令和元年度）